

「 翻 訳 地 帯 」

刊 行 記 念

フ ェ ア

か

で

「

?

き

翻

世

界

は

る

訳

ど

こ

ま

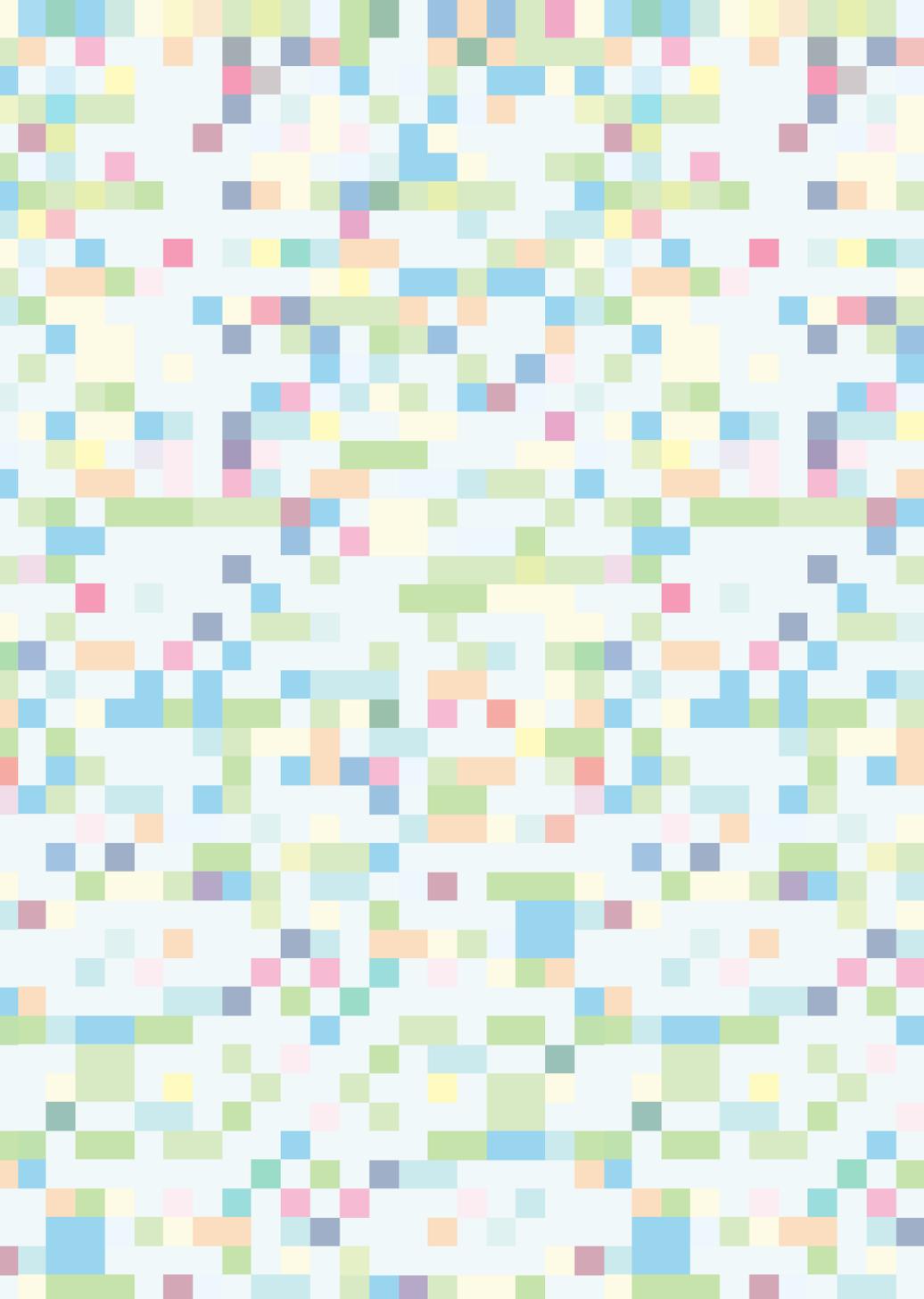
で

の

」

ブックリスト

慶應義塾大学出版会



【翻訳をめぐる二十の命題】

- 翻訳可能なものはなにもない。
- グローバル翻訳こそ、比較文学の別名である。
- 人文主義者の翻訳知は、ヒューマニスト トランスラティオ批評的世俗主義である。
- 翻訳地帯は戦争地帯である。
- 米軍の軍事戦略の想定に反して、アラビア語は翻訳可能である。
- 翻訳は手職であり、ブティ・メチエ翻訳者は文学的プロレタリアートである。
- 混合言語は、グローバル英語の絶対支配に異を唱える。
- 翻訳は、母語に対するエディプスの攻撃である。
- 翻訳は、母語のトラウマ的喪失である。
- 翻訳は、複言語的かつポストメディア的表現主義である。
- 翻訳はバベルであって、普遍的に理解不能な普遍言語である。
- 翻訳は、惑星と怪物の言語である。
- 翻訳は、テクノロジーである。
- 翻訳調は、グローバルマーケットにおける包括言語である。
- 翻訳は、テクネ技術の普遍言語である。
- 翻訳は、フィードバックループである。
- 翻訳は、自然をデータに転置することができる。
- 翻訳は、言語と遺伝子を結ぶインターフェースである。
- 翻訳は、システム—サブジェクトである。
- すべては翻訳可能である。

世界はどこまで 「翻訳」できるのか？

今井 亮一

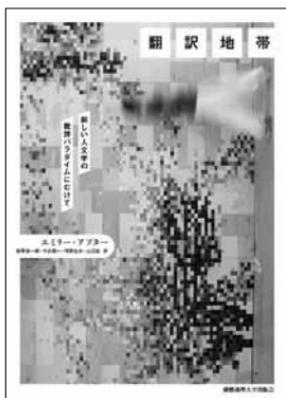
昨年末、新幹線の台車に亀裂が見つかった問題で、重大インシデントという聞き慣れない翻訳語が使われていたのは、記憶に新しい。この言葉づかいに、あくまで事故ではなかったのだという安全神話を感じてしまうのは、7年前のことがあるからだ。福島第一原発のタービン建屋が吹っ飛んださいに使われた、爆発的事象というやはり耳なじみのない語。原子力がらみの異常を、レベル0「安全上重要でない事象」からレベル7「深刻な事故」に分類する INES とその日本語版によれば、3以下は「異常事象 incident」であり、4以上が「事故 accident」となる。そして日本政府が当初、福島原発の状態としたレベル3は「重大な異常事象 serious incident」、つまりは「重大インシデント」と呼ばれている。

incident をインシデントと無翻訳のまま残しても、(異常) 事象と訳しても、あるいは事故とやや意識しても、語学的に誤りとは言えない。ならばこれは、翻訳研究であつかえない問題なのだろうか？あるいはこうした時事社会的・科学技術的な話題を前にすれば、伝統的な人文学は無力なのだろうか？ 2006年に刊行された『翻訳地帯』に3.11の話はもちろん出てこないが、このような問いを補助線としてみると、同書の問題意識が現在の日本でも身近に感じられるかもしれない。著者エミリー・アプターはイントロダクションで書いている——「本書の狙いは、伝統的に、原作に対する語学的・逐語的の忠実さの観点から論じられてきた翻訳研究を再考することにある」。そしてこの本の背景には、9.11や科学技術への目配せがある。

プログラミングやゲノム解読の知見によって、共通コードが想定される以上「すべては翻訳可能である」と見える場合もあれば、アラビア語やイスラムがテロリズムや宗教≠非世俗を含意して即座に敵対してしまうような、「翻訳可能なものはなにもない」と見える事態もある。後者の延長線上に、今なお続くテロ、トランプ政権さえ誕生させた移民排斥の風潮、さらにはヘイトスピーチがあることを思えば、ポスト 9.11 の人文学を考察した先駆的な著作である『翻訳地帯』は、特に補助線なくさらに身近なものとなるはずだ。

人文学という大きなくりのなかでも、比較文学を専門とするアプターが思索の手がかりとするのは、アウエルバッハやシュピッツァーの文献学であったり、ベンヤミンやサイドなどの批評であったり、世界文学や現代アート作品であったりする。こうした話題の広さに呼応するように、『翻訳地帯』の「翻訳」が指す範囲も広く、クレオールや言語実験や非標準的言語なども「翻訳」の文脈で取り上げられる。むしろここでは、なにが翻訳でないかを考えたほうがわかりやすそうだ。端的に言えばそれは、ひたすら1つの言語に留まるという単一言語主義だ。ただし同時にアプターは、「すべては翻訳可能である」という、安易な他者理解に通じるお花畑にくみするわけでもない。『翻訳地帯』が探究するのは、まさに「翻訳一中 in-translation」の地帯だ。

アプターは後の著作で、『翻訳地帯』の営みに関して「活性化 activate」という語を使っている。この本を貫いているのは、なんにでも一般的に当てはまる「理論」というより、様々なことがらを通じて伝統的な人文知を活性化し、新たな批評パラダイムに向けて変容させ「翻訳」していくという、一種の態度や姿勢だと思われる。このブックフェアが、そうした営みをさらに広げていくヒントとなれば、とてもうれしい。



翻訳地帯

新しい人文学の
批評パラダイムにむけて

エミリー・アプター 著

秋草 俊一郎 訳

今井 亮一 訳

坪野 圭介 訳

山辺 弦 訳

A5判上製 / 420頁 本体価格 5,500円

ISBN : 978-4-7664-2518-5

戦争とは、誤訳や食い違いの 極端な継続にほかならない。

9.11「同時多発テロ」以降の混迷する世界状況を、「翻訳」という観点から緻密に分析する斬新な試み。

本書で俎上に上げられるのは、第二次世界大戦中のシュピッツァー、アウエルバッハの思想にある人文主義的コスモポリタニズム、スピヴァク、サイードの惑星的批評、ウリボなどの実験的な言語芸術の政治性、クレオールやバルカン半島の多言語状況の文学、さらには現代アートと擬似翻訳を例にした翻訳とテクノロジーの問題……など多岐にわたる。

「翻訳可能なものはなにもない」「すべては翻訳可能である」——二つの矛盾するテーゼを掲げ、言語と言語の狭間にあるものを拾いあげること、「翻訳中」のままに思考しつづけることを提言する。

【著者】

エミリー・アプター (Emily Apter)

1954年生まれ。1983年プリンストン大学比較文学科で博士号を取得。ニューヨーク大学フランス文学・比較文学教授。おもな著作に、*Feminizing the Fetish: Psychoanalysis and Narrative Obsession in Turn-of-the-Century France* (1991)、*Continental Drift: From National Characters to Virtual Subjects* (1999)、*Against World Literature: On The Politics of Untranslatability* (2013) など。

【訳者】

秋草俊一郎 (あきくさ・しゅんいちろう)

1979年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科修了。博士(文学)。現在、日本大学大学院総合社会情報研究科准教授。専門は比較文学、翻訳研究など。著書に、『ナポコフ 訳すのは「私」——自己翻訳がひらくテキスト』、『アメリカのナポコフ——塗りかえられた自画像』(近刊)。訳書に、バーキン『出身国』、ナポコフ『ナポコフの塊——エッセイ集 1921 - 1975』(編訳)、ダムロッシュ『世界文学とは何か?』(共訳) など。

今井亮一 (いまい・りょういち)

1987年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程在籍。2014-15年度サントリー文化財団鳥井フェロー。専門は比較文学など。論文に、「中上健次の「日本語」について——翻訳研究の視点から読む中期作品」(『れにくさ』第8号) など。共著書に、『スヌーピーのひみつ A to Z』。共訳書に、ハント『英文創作教室 Writing Your Own Stories』、モレット『遠読——〈世界文学システム〉への挑戦』など。

坪野圭介 (つぼの・けいすけ)

1984年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。現在、同大学院特任研究員。専門はアメリカを中心とした都市文学・文化。論文に、「形式は機能に従う——詩人カール・サンドバーグと建築家ルイス・サリヴァンの摩天楼」(『れにくさ』第8号) など。訳書に、キッド『判断のデザイン』、シールズ他『サリンジャー』(共訳) など。

山辺弦 (やまべ・げん)

1980年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了。博士(学術)。現在、東京経済大学経済学部専任講師。専門は現代スペイン語圏のラテンアメリカ文学。著書に、『抵抗と亡命のスペイン語作家たち』(共著)。訳書に、アレナス『襲撃』、ピニェーラ『圧力とダイヤモンド』、ダムロッシュ『世界文学とは何か?』(共訳) など。

ブックフェアリスト

◆世界文学◆

書名	編著者名	本体価格 (円)	刊行年	出版社
世界文学とは何か？	デイヴィッド・ダムロッシュ【著】／ 秋草俊一郎・奥彩子・桐山大介・ 小松真帆・平塚集介ほか【訳】	5,600	2011	国書刊行会
遠読	フランコ・モレットティ【著】／ 秋草俊一郎・今井亮一・落合一樹・ 高橋知之【共訳】	4,600	2016	みすず書房
世界文学の構造	曹泳日【著】／高井修【訳】	2,900	2016	岩波書店
世界文学史はいかにして 可能か	木内徹・福島昇・西本あづさ【監訳】	3,500	2011	成美堂
世界文学空間	パスカル・カザノヴァ【著】／ 岩切正一郎【訳】	8,800	2002	藤原書店
文学 2016年9・10月号 (特集：世界文学の語り方)	岩波書店「文学」編集部【編】	2,700	2016	岩波書店
世界文学全集 短篇コレクション1	池澤夏樹【編】	2,700	2010	河出書房新社
ミメーシス 上	エーリッヒ・アウエルバッハ【著】 ／篠田一士・川村二郎【訳】	1,200	1994	ちくま学芸文庫
ミメーシス 下	エーリッヒ・アウエルバッハ【著】 ／篠田一士・川村二郎【訳】	1,400	1994	ちくま学芸文庫
ある学問の死	ガヤトリ・チャクラヴォルティ・ スピヴァク【著】／ 上村忠男・鈴木聡【訳】	2,600	2004	みすず書房
理論 比較文学	ディオニース・デュリシム【著】／ 谷口勇【訳】	5,000	2003	而立書房
実験する小説たち	木原善彦【著】	2,200	2017	彩流社
アメリカのナボコフ	秋草俊一郎【著】	2,800	2018	慶應義塾大学出版会

◆翻訳◆

書名	編著者名	本体価格 (円)	刊行年	出版社
翻訳地帯	エミリー・アプター【著】／ 秋草俊一郎・今井亮一・坪野圭介・ 山辺弦【訳】	5,500	2018	慶應義塾大学出版会
バベルの後に上	ジョージ・スタイナー【著】／ 亀山健吉【訳】	5,000	1999	法政大学出版局
バベルの後に下	ジョージ・スタイナー【著】／ 亀山健吉【訳】	6,000	2009	法政大学出版局
翻訳文学の視界	井上健【編】	2,500	2012	思文閣出版
翻訳研究のキーワード	モナ・ベイカー、ガブリエラ・サル ターニャ【編】／藤清文子【監修・ 編訳】／伊原紀子・田辺希久子【訳】	3,200	2013	研究社
翻訳できない世界のことは	エラ・フランス・サンダース【著】／ 前田まゆみ【訳】	1,600	2016	創元社
翻訳のダイナミズム	スコット・モンゴメリ【著】／ 大久保友博【訳】	4,000	2016	白水社
アレゴレス	張隆溪【著】／ 鈴木草能・鳥飼真人【訳】	5,000	2016	水声社
翻訳学入門	ジェレミー・マンデイ【著】／ 鳥飼玖美子【監訳】	4,300	2009	みすず書房
ナボコフ 訳すのは「私」	秋草俊一郎【著】	3,800	2011	東京大学出版会
完全言語の探求	ウンベルト・エーコ【著】／ 上村忠男・廣石正和【訳】	1,900	2011	平凡社ライブラリー
英語の感覚・日本語の感覚	池上嘉彦【著】	970	2006	NHK ブックス
ベンヤミン・コレクション 1 近代の意味	ヴァルター・ベンヤミン【著】／ 浅井健二郎【編訳】／久保哲司【訳】	1,500	1995	ちくま学芸文庫

※ とりそろえていない書籍も一部ありますが、ご了承くださいませ。

◆戦争・境界◆

書名	編著者名	本体価格 (円)	刊行年	出版社
シビル・ウォー (MARVEL)	マーク・ミラー【作】 / スティーブ・マクニーン【画】 / 石川裕人・御代しおり【訳】	3,200	2011	ヴィレッジブックス
戦争論上	カール・フォン・クラウゼヴィッツ【著】 / 清水多吉【訳】	1,286	2001	中公文庫
戦争論下	カール・フォン・クラウゼヴィッツ【著】 / 清水多吉【訳】	1,286	2001	中公文庫
たった一つの、 私のものではない言葉	ジャック・デリダ【著】 / 守中高明【訳】	2,100	2001	岩波書店
定本 想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン【著】 / 白石隆【訳】	2,000	2009	書籍工房早山
〈帝国〉	アントニオ・ネグリ、マイケル・ ハート【著】 / 水嶋一憲・酒井隆史・ 浜邦彦・吉田俊実【訳】	5,600	2003	以文社
国境の越え方	西川長夫【著】	1,300	2001	平凡社ライブラリー
エクストラテリトリアル (移動文学論Ⅱ)	西成彦【著】	3,200	2008	作品社
人文学と批評の使命	エドワード・サイード【著】 / 村山敏勝・三宅敦子【訳】	960	2013	岩波現代文庫
ポストコロナル事典	ビル・アッシュクロフト、ガレス・ クリフィス、ヘレン・ティフィン【著】 / 木村公一【編訳】	4,000	2008	南雲堂
〈複数文化〉のために	複数文化研究会【編】	2,600	1998	人文書院

◆メディア◆

書名	編著者名	本体価格 (円)	刊行年	出版社
デリダ論	ガヤトリ・チャクラヴォルティ・ス ビヴァク【著】 / 田尻芳樹【訳】	1,100	2005	平凡社ライブラリー
技術への問い	マルティン・ハイデgger【著】 / 関口浩【訳】	1,500	2013	平凡社ライブラリー
メディア論	マーシャル・マクルーハン【著】 / 栗原裕・河本仲聖【訳】	5,800	1987	みすず書房
ドラキュラの遺言	フリードリヒ・キットラー【著】 / 原克・大宮勘一郎・前田良三・ 神尾達之・副島博彦【訳】	3,400	1998	産業図書
〈時と場〉の変容	若林幹夫【著】	2,600	2010	NTT出版

※とりそろえていない書籍も一部ありますが、ご了承くださいませ。





2018.5